

清
一
切
脚

中村俊定文庫
文庫 18
374



序

南窓此さくさくたるうつれ小窓の
梅ハ紫より白なりものさしひたり
く終る者く春此はあはれ志のふく
仰波留中層白ハ風邪もあま子を誘く
藤崎山のけしきと交りてあはれ
あはれうけしきもあはれうけしきもあはれ

河へ流けし山々の風海をゆるり寄ふ
 まは外川の溪村音夏の浦つらみよ
 秀吟の寄くくな海の中より予夏野亭
 此日並いさう捨つて一北の跡
 乃錦と吸ふふあむ実曆庚辰を交
 下つた大寺の他山奴まつて述



目録

枕上三吟

三十六貝

隣田螺歌仙

躑躅一見

潮來賦

書音



枕上三吟

麻嶋山のは、一尺の程あり
三人六七里あるは、うきをまよ
袖子よ、復た身もの、うきあまひ

まぐへハ、こころま、まのる

蓼多

嗚も杖を去く 七尺

山奴

枕して山さるや家さる

風齋

柱又既伸の巢も白ひ

山奴

枕よす我を寝たりむの宿

都鴈

予を崔ふ上、ふのう、り登

山奴

貝尽小序

まあるは、晴るを、ゆる、泉、鳴、り
眠、江、り、あ、を、武、陵、の、と、あ、ふ、あ、り、と
合、く、あ、ら、ハ、四、睡、乃、斬、を、の、を、り、と、笑、よ
お、更、の、膳、を、を、お、ろ、ろ、に、揺、む、も
ま、て、あ、ら、い、と、三、十、六、の、九、々、よ、あ、る、く
机、上、り、少、女、の、弄、る、る、人、一、そ、れ、け
う、ち、り、見、つ、く、の、を、を、ひ、ろ、ふ
そ、あ、ん、舟、さ、ら、は、足、濡、さ、次、他、借、の
以、予、り、と、の、ふ、画、

三



まじりき貝 左

須磨よ今ちきつく淋し簾貝

泉鳴

ワそれ貝 右

むろぶや毎うけて世成忘 貝

山奴

梅花貝 左

竹貝そ花梅花のまほまじり

風齋

まれ貝 右

渺くと風表や貝花まじり

都雁

まじり貝 左

指花と波見の松やけり貝

眠江

まじり貝 右

貝ひろふ人やまじり花あぶし

蓼太

むらさけ 左

菱あまや紫貝花あ日より

風齋

まじり貝 右

まじり貝の端まじり田子花浦

眠江

押子貝 左

ふそー子此帯さへるや貝指石 都鴈

波間拍 右

離り登る波がこ此胡胸 泉鳴

きぬ貝 左

荒和布も粘の利貝石 蓼太

まろ貝 右

まの菱形富士とあふ形や枕貝 山奴

水地貝 左

型と持ふ貝此綿や以て写 眠江

色貝 右

いろく此袖うら出り貝合 都鴈

法螺貝 左

法螺赤色ハ先達もワリ以て写 蓼太

みや貝 右

岩摺り波乃うつり部貝 泉鳴

うらうら 左

むく時うらうらは貝や波うら 山奴

さくく貝 右

ひんたをさくくたり貝ふ 風齋

ちりり貝 左

都へも通ふ潮ありふを貝 蓼太

さくめ貝 右

蛤ありさくめや雀貝 都鴈

いじや貝 左

まきー波のあきせりや貝 眠江

あや貝 右

影る波るや松のちまや貝 風齋

あり貝 左

おるふ錢まや胞乃行男波 山奴

かー貝 右

足跡錢こりやかー貝 泉鳴

うりせ 左

鴻畑新蜂と化してやうばせ貝 蓼多

乃あ貝 右

仇あまのまぐりり乃あ貝 風齋

刺貝 左

あきりといろ腫瀉る名あし 都雁

塩貝 右

志日貝や研うつ波の煙より 山奴

おあ 左

海士の子おものあ貝まをりか 眠江

かっぱ 右

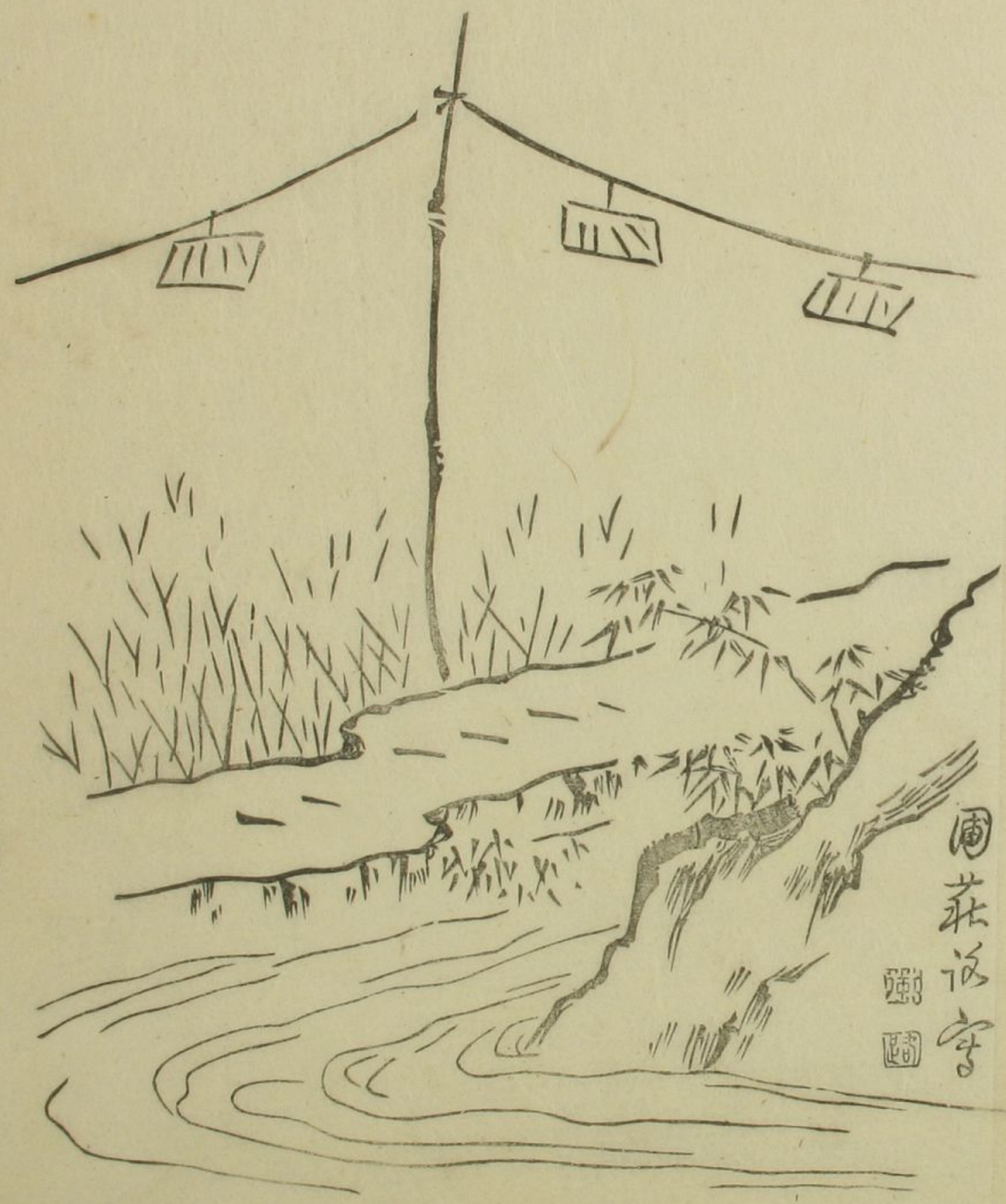
拾ひ人も僧ふ禿やけは貝 泉鳴

あ貝 左

うちよをて貝も角らむ言るるれ 都雁

みぞ貝 右

うらむどとい貝まをりか 蓼多



ちぬくり 左

蛤や漣を舟の葉をあそぶ 泉鳴

あそぶ 右

見まうふふ其石の濱の蜆貝 風齋

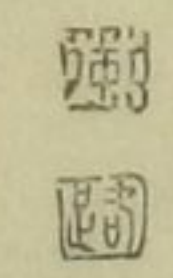
小貝 左

さきあそぶの小貝を拾ふ層もあし 山奴

千種貝 右

ふのさかみどり千種の貝づく 眠江

圃莊法守



なま貝つくーと名く一の深あるあり
都所きともよゆのあまほこは角きく
あそふもあそふもあそふもあそふも
おのりあそふもあそふもあそふも
かた乃徳士のたぐめり方丈とくや
つるものあそふもあそふもあそふも
その屈居をあらきむ

小窓越こちくくまらる田螺うれ

蓼太

水志ハくくとさむき苗代

山奴

縣石志あつ顔の京あきて

泉鳴

吳服の中より靴子さうつ子

都雁

ウ

刈刈又夕々まあむ風の月

眠江

種すき系を一里かへつ

風斎

竹舟は論子の給若習あそ

奴

古拭あそふ睡りけく忍れ

太

むる能年ハ濡さぬ合鳥也

雁

梅津はほく松の尾乃宮

鳴

空子尾又白の目切能あ淋

疥

葛筆為氣も中よ似城

江

有のよけうき舟を帆と掛て
うづくと成り関の朝起
庭具ふぞく扇乃う（此書門不
去りても只 百能法とも
山くの花咲のわり咲おし
ぬ 呑 扱も復もそこす
風光るわ門不のそとり細のそ
妻と側と眠く 本阿 涌

鳴 太 奴 雁 舟 江 雁 鳴

とささし鼻毛小娘よくるハ何
さきも紀三井の身も遠く
摺小あも木の芽とめくるまじし
をう系まると公家を脱ぎ
舩頭よひとり通辞のあしき
木はまきくりく星能更け
分散の者ハ狸のぼくまき
思案とちくと髪よ金糸

奴 鳴 舟 江 太 奴 江 舟

月讀と掃も日讀もちるもみち
 毛のよりけろふ毛のうらむす
 粘うり能は濯時成おとろし
 十ウ
 とりあへく陽告しても存まに
 皮付よそ森ふ乃丸はしら
 不ろく降の天下泰平
 志々重成一枚少事てむり
 細ゆり合守標と為るると
 太 雁 鳴 江 奴 雁 斎 執筆

鹿嶋山躑躅

人の世はありて見らるつゝ一丸
 風をりり松とのころて山はし
 来りてさへ扇手に晴ま躑躅系
 くの目成下りし思やみほり
 夜ら又つじふふく小麻うね
 喉ものなきははくつゝ一丸
 日のもとそあもちりてはし
 太 夢 江 眠 都 雁 唯 我 山 奴 泉 鳴 風 齋

潮來賦

菜路菴渡道

水き構あり御來と叫ぶ香石の森
きうくは又色うく次うーろを縮る山の
列樹を帯おろす賈嶋例乃眺望有り
多又十二の板橋残をく、いよーへ
やあふ友人のぬきき能たきまそ
終又魚石の浦と、味するよふ人宜

あううな東よハ藤島の神に委跡
ありとくその老松帯能たわふふと媒
してよーや帆波きてハ帰る一松の
お圃又百年の齡を延算ハ猶さそ也
音より長障を開て燈りよーし
能田のニ多武あふし月子かふ乃
嫁眉を彩り能きそ川の滝り
あくれ波のうつ鼓又合りやすん

郎ハ情を合く一片の物をたぐは
 志生以て綿纏みあしむを休そそ業ハ
 中身又び〜くそみ解を浴す
 似〜り魚ひさ〜御イラスり乾坤日夜
 鵬鳥テウリ人稱を浮へ一翫此程歌を
 小舟
 〜あむ〜く〜りや杖念お〜つま〜く
 存りとのわ〜る時ハいうあれ思ひ乃
 み持〜く来ぬ〜ぬ〜標干よえつ〜り

〜く〜空成福も実か〜らば〜ら
 螺首カハあ〜く〜く〜く〜純はゆの
 志〜りか〜れま〜橋とぬ〜り〜と
 此地を向〜く〜壳業を〜ら〜み〜

右紙ハいつの〜〜〜後子始号〜り〜
 着才
 筆を〜く〜交却年よ〜む〜る〜之〜彼地〜の〜念〜持
 こと〜 昨更の吹りよ〜りま〜ぬ〜る〜み〜ない
 亦〜れ〜ん〜そ〜を〜あ〜つ〜ら〜つ〜〜く〜そ〜も〜よ
 乃御乃か〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 仰り〜ある

他御書音

傾城の其日くくくやくつ唐
柳肘
押あしくくくくくくくくくくく
金沙

新着て深ま萬尾やかまつもく
吏流

白葉の水よりゆき新秋のりれ
楚水

いさ唐能さ法もくきさの香
物雲

動して又さハ新くぬ板く那
這平

橋つまや服初珠のまわりせ
信夫
朝くくくくくくくくくくく
自來

くくくくくくくくくくくくく
如雷

束枯や帆のうかしくくくく
蓼且

大は絵のねハ出あけ隔うふ
機石

渡舟や押きくくくくくくく
柳波

背あまや初新くくくくくく
夜光

春の朝よ晴れやおほら月
秋の夜よ静けくとも晴れうき
春の朝よ晴れよ夕屋一色
飯汁や梅咲きもさきさき

眠我
宜中
花明
桃鏡

を付終し〜波もけりあつる
四阿屋の一目よ悔ふはくさうれ
十六枚紙圍りてはる新酒さき

麓文
野菊
五全

ぬきて出さるも秋空よふ廣りり
下野や水ようつまはまふよもの
風よさけ今年もありははくさ
月ひらり新ハワラくの踊うふ
ほ〜むん富士の伊予空もよし

萬古
枝貞
崩腹
史軺
求光

くさむすや糸極殿の坪乃くち
ひさ〜人押さくちま〜り

慎車
左蘭

こほさーとある鈴あり木くの者 牛東

いつの男小松をあらしてやおほる月 南羅

琴の母のおりくり火桶系 駿府 鐘山

投るまきくあるところへと角刀取 金鳥

葉のりや十をあらうとちりり 乙兒

妻をまきごり帆をもあしぬ巾 鳴田 大耳

うゑまきいづまて啼をあらはく 眞津 曙山

出まふくさちくもまき又雪アスル 酒匂 鯉牛

岸やかまきまをぬいぬい 城中 麻父

梅くやるる麻させく夜もすけ 加賀 素蘭

ひの火と尻よほしてほるま 名古屋 木兒

神るく繩よあはれく巖り那 南宮

梅よまけり月もつり 柳美 八亀

手の中菴の海路を這ふ

晴は是目も見えあー叶もく

伊勢 麦浪

そらうーはうはくはま草のむ

如之

嘘をぬるよ入やあす能川

大津 文素

さうさいおおやあまの水乃香

可風

一林うま世の外や離のまじ

京 山只

一輪よむみ波はるほらんうさ

花汐

落しけりまやあまのく川は

歩月

上総

みーあやめくおーあな勢の勢

高根 吏仙

給仕る袖の追風もむ袖うさ

蚊牙

雲切す勢のあけやほくま

雪園

くもる村花と定まぬ莖うれ

喜帳

谷くく菊ひのとりさうが

法目 花上

かりきよ川まで清く移舟うそ
 今瘦るものもありり梨土筆
 多梅や暮る月日思ひき次
 ひつち田の交ハあまりり初時る
 聖ころろ子園をみたる巨燧うれ
 梅さくくあくへ保せて不く子に
 帆柱に雲は従年てふふろうれ
 枚方色ハ懐小暮やたしくあ次
 眉山
 平田
 六渡
 呂風
 春字
 龜鏡
 五井
 桂舎
 極井
 宜収
 斤貝
 雪蓑

あひとつあやう小暮く柳うれ
 さころろん海へ病さを遊海し
 横芝
 浣江
 野毛
 吐月

下総

川暮よあまきちくくや郭 云
 山吹やほくぬ影と水乃く
 せきまひよ又うき橋に水うれ
 行まきや葉桂くくくも
 山を移よ吹やほくく一の要石
 小見川
 楚調
 龜毛
 小見
 採去
 飯田
 哥來
 何玉川
 唄舟

花城くはらまらうーかすつそ

川上 橋泊

夏其の目をそそそくぬる

新里 顯山

あふあやや股うー取く十家

大寺 一路

まうーりー二第此先の茂うれ

露活

全

羽子板の縁をそそきとや紙離

岩辺 茂蘭

あやうーやうもねく枝あう

内山 西湖

掛竿ハまへたもむやうもか

飯塚 野高

松明は消く啼あは小鶴うそ

新村 露星

うらうらと扇根と習うて瓢うれ

蓋里 玉斧

すいすい草妻よまへる水鶴うれ

八市場 矢海

娘松も腫をそそそるけ干うそ

一坊 龜掬

卯のちやうけねくそそ松の風

龜掬

川裾はうらうらとそそやをいり

奥矢

そそねいあせそそ柳うれ

太田 樂只

里の若れあそそくそそ五月る

太田 五綾

むりー強々ろりいそまや十三根
 心祇
 ろろいそまやまきー於のゆめり
 鳥酔
 山くを牡丹く又くー時を
 秋凡

り類や保人もちて嘆いそま
 斑象
 つまらぬやまのくろくろけけ西
 白牛
 真のひやま乃價ハ定まら次
 渡道

雪中菴俳書目録

芭蕉翁句解	英太述	曉花遺稿	吏流
白滝百韻	機石集	前編花三斛	如雷 お光
鬚帯	俳房廿五禁宗祇述 英太解	續其袋	古嵐雪文集 藝太撰
俳諧唐詩三物	雪門社中	幸崎三吟	柳波 湖涼
蜀川夜話	赤羽左衛門 并古人句拾 着才撰	台の宿	成澤 仁太
墨繪合	六玉川 如雷赤羽左衛門 南羅牛東光	僧都問答	風 為述
魚と水	古今婦女句拾 女聖系撰	鄒躅行脚	山奴集

忍月守歌仙

水の音 物雲換

色連七部 七部搜養大抵

去来湖東問答 全

書肆

江戸通油町

須原屋大兵衛持

